小須戸中学校創立八十周年記念式典　式辞

本日、ここに新潟市立小須戸中学校創立八十周年記念式典を挙行できますことを、心よりうれしく思います。ご多用の中、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様、そして、長年にわたり本校を支えてくださった地域の皆様、保護者の皆様に、心より感謝申し上げます。

さて、先日、本校から歩いてすぐの場所で発見された潟端遺跡の現地説明会に参加しました。そこでは、飛鳥時代から鎌倉時代にかけての人々の暮らしの跡が見つかり、勾玉や石油の塊なども出土したと伺い、実際目にすることができました。千年以上も昔、この小須戸の地に人々が暮らし、さまざまな営みを重ねていたのです。

また、山の手地区では、今も石油が地中から湧き出ています。出土した石油の塊を目にしたとき、私は、古くから続く山の手と小須戸とのつながりに思いをはせました。

さらに、遺跡の近くには、サンフランシスコ平和条約によって日本が独立を回復することを祝って植えられた雁巻桜並木がありました。現在は橋の建て替え工事のため並木の一部は伐採され、材木を使って木工細工を作成しています。

古代の人々の営み、大地の恵み、そして戦後の新しい時代への希望。私たちが何気なく暮らしているこの小須戸には、実に豊かな歴史が息づいています。私は、こうした歴史に触れながら、一つのことを考えました。

小須戸という地域には、時代の変化を受け止め、新しい未来を切り拓こうとする精神が、受け継がれてきたのではないだろうか、と。そして、その精神は、今の小須戸中学校の生徒たちの姿にも重なります。

数年前のことです。当時の生徒会役員が、自分たちの手で運営する自主学習スペースを設置したいと、校長室を訪れました。しかし、その実現には、さまざまな課題がありました。当時の校長先生と困難な点を共有した生徒たちは、一度は提案を取り下げざるを得ませんでした。その帰り道、生徒会役員は涙を流しながら帰宅したそうです。

けれども、話はそこで終わりませんでした。生徒たちは諦めず、どうすれば実現できるのかを考え、解決策を持って、再び校長室を訪れたのです。そして、ついに生徒会自身の力で運営する自主学習スペースが実現しました。

私は、この話を他の勤務校に勤めていたときに耳にしました。そのころから、この話に、小須戸中学校が大切にしてきた教育の姿を見る思いがしていました。自分たちの願いを、自分たちの言葉で伝えること。困難に出会っても、諦めずに考え続けること。そして、異なる立場の人と対話しながら、新しい道を見いだしていくこと。生徒の皆さん。これこそが、皆さんに大切にしてほしい力です。

さて、この創立八十周年という節目に、本校は教育目標の一部を改めることといたしました。

これまでの 知性・創造・自主・協同」を、 知性・創造・自主・協働」へと改めます。 協同」から 協働」へ。わずか一文字の変更です。しかし、そこには、これからの小須戸中学校が目指す姿への願いを込めています。

同じ目的に向かって力を合わせることに加え、一人一人の考えや持ち味を尊重し、いろいろな立場の人が、その立場の違いを越えて、新しい価値を生み出していく。そのような学びを、私たちは大切にしていきます。

今回の教育目標の変更に当たっては、学校運営協議会、同窓会、保護者の皆様へ提案して参りました。そして生徒会役員の皆さんと協議をして、賛同をいただきました。

立場も世代も異なる人々が、これからの学校の姿をともに考え、意見を交わしていく。教育目標を改めるまでの過程そのものが、私たちの目指す 協働」の一つの姿であったと感じています。

地域の皆様、保護者の皆様。

小須戸中学校の八十年の歴史は、学校だけで築かれてきたものではありません。

子どもたちの成長を願い、時には励まし、時には見守り、学校とともに歩んでくださった皆様の歴史でもあります。そして、私はこれからの学校と地域の関係を、単に支える側と支えられる側という関係にとどめたくはありません。地域の皆様との出会いによって、生徒たちの世界が広がる。生徒たちの新鮮な発想や行動によって、地域にも新しい活力が生まれる。学校と地域が互いに学び合い、育ち合う。そのような関係を、これからも皆様とともに築いてまいりたいと思います。

八十周年は、これまでの歴史に感謝する日であると同時に、未来に向けて歩み出す日でもあります。二十年後、本校が百周年を迎えるとき、今ここにいる生徒たちは、社会のさまざまな場所で活躍していることでしょう。そのとき、 小須戸中学校で学んでよかった」「この地域で育ってよかった」と、心から思えること。そして、自分たちが育ったこの地域を、今度は自分たちが支え、次の世代へとつないでいこうと思えること。

それが、私たちの願いです。千年以上前から人々の営みが続いてきた、この小須戸の地。その長い歴史の中で、私たちは今、新たな一歩を踏み出しています。歴史を受け継ぐことは、過去を守ることだけではありません。未来に向けて、新しい歴史をつくることでもあります。

結びに、これまで本校を支えてくださったすべての皆様に、改めて深い敬意と感謝を申し上げます。生徒、教職員、保護者、地域の皆様とともに、百周年へと続く小須戸中学校の新たな歴史をつくっていくことをお誓いし、式辞といたします。

令和八年十月二十三日

新潟市立小須戸中学校

校長　玉井　博史